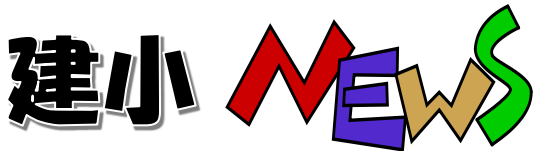


～ ふるさとを愛し 自ら学び 未来を切り拓く建屋っ子の育成 ～



養父市立建屋小学校 学校だより
令和5年10月30日 No.16



「秋のオープンスクール」開催 ～ ご家族そろってお越し下さい ～

本校は、「英語を通した多文化理解（グローバル教育）」と「演劇を通したふるさと理解（ローカル教育）」を重点目標に掲げ、「地域とともにある魅力ある学校づくり」を推進しています。また、幼児期からの円滑な接続と切れ目のない支援をめざして市内のこども園と緊密な連携を図るとともに、小中一貫教育の推進により校区の小中学校とも深く連携し合っています。

オープンスクールでは、こうした特色ある教育活動の一端を見ていただこうと、授業のほかに以下の教育活動も公開しています。（夏のOS＝オープンスクールは終了しています。）

○夏のOS：6月16日（金）・17日（土） 終了

※イングリッシュマラソン、ふるさとキャリア学習会 ほか

○秋のOS：11月17日（金）・18日（土）

※「ふるさとたきのや物語」上演、三谷こども園（5歳児）によるステージ発表
オープンエレメンタリースクール（5歳児を対象とした体験入学、1年生との交流）
地区の皆様によるカフェ、たきのや力餅の配布、物品販売、作品展示 など

○冬のOS：2月16日（金）・17日（土）

※こども園体験入学（本校に入学予定の児童）
スピーチコンテスト（5・6年生による英語スピーチ、1～4年生による英語ショー）



案内ちらしやホームページでも紹介中ですが、秋のオープンスクール2日目は、校区の皆様が物品販売や作品展、餅の配布などで会場を盛り上げて下さいます。子ども達の演劇「ふるさとたきのや物語」の上演とあわせて、どうぞお楽しみください。ご家族そろってお越しください。

「ふるさとたきのや物語」2023 オリジナル 舞台稽古スタート！

1・2年	「おれたちオオサンショウウオ」 *19匹の個性豊かなオオサンショウウオが、舞台の上を元気に動き回ります。歌あり踊りあり、かわいさ満点、見所満載です。初めて舞台に立つ1年生も想像以上の名演技を見せてくれそうです。	3・4年	「渠(みぞ)成って心(みず)至る」 *旧「建屋中学校」誕生にまつわる歴史や、開校に向けた地域の人々の思いに焦点を当てました。長く難しい台詞ばかりですが、3・4年生が力を合わせて演じます。劇中に登場する「建屋中学校校歌」もお楽しみに。
5年	「町村(まちむら)と呼ばれたまち建屋」 *「らいおんカフェ」を訪れたお客さんと接客体験をする5年生との交流を演劇にしました。建屋地区がかつて「町村(まちむら)」と呼ばれ、商業で栄えていた頃の昔話に花が咲く…そんな日常を演じます。	6年	「北垣国道物語～琵琶湖疎水編～」 *第3代京都府知事として京都の復興に力を尽くした北垣国道。建屋出身の北垣が、市民の強い反対を受け、資金調達などの課題を克服しながら琵琶湖疎水事業を完成させるまでの道のりを演じます。

「演劇」を通して育てたい力・資質



「ピッコロ劇団のプロの役者から、演劇表現について直接学ぶことができる」、それが本校の魅力の一つになっています。「演劇」のプロに学べるというのは、子ども達にとって最大の魅力ですが、教育上の目的は、「演劇」を通して「非認知能力」を育てるという点にあります。

「非認知能力」とは、意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力といった、物事に対する考え方や取り組み姿勢、態度のことで、数値化できない力のことです。いっぽう、学力テストなどで測定できる能力のことを「認知能力」と呼んでいます。

■非認知能力……主に「意欲」「意志」「情動」「社会性」に関わる3つの要素からなる

- ①自分の目標を目指して粘り強く取り組む
- ②そのためにやり方を調整し工夫する
- ③友達と同じ目標に向けて協力し合う



現行の「学習指導要領」の中で、「育成すべき資質・能力の3つの柱」として示されている「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性」のうち、「**学びに向かう力・人間性**」がこの「非認知能力」に当たります。「非認知能力」は、幼児期から学童期の早い時期に高めるのが効果的であるといわれます。本校が英語教育や演劇を通して「表現力」や「コミュニケーション力」等の「他者と関わる力」の育成に力を入れているのは、こうした理由からです。

取材⇒現地調査⇒台本作り⇒配役⇒役づくり⇒通し練習と、「多様な他者と関わり」、「日々目標を立て調整しながら」、「協力し合って」演じる「ふるさとたきのや物語」は、「非認知能力」を育成する重要な機会となっています。

多様な人とのふれあいや感動体験が「心」を育てます

◆体力アップサポーター田尻先生と

◆E-Parkのハロウィンパーティで



◆谷川玄龍先生と書写の授業

◆6年生中学校登校☆3小合同で授業や部活動体験を行いました。



※裏面に「全国学力・学習状況調査」(4月18日実施)の結果分析を掲載しています。

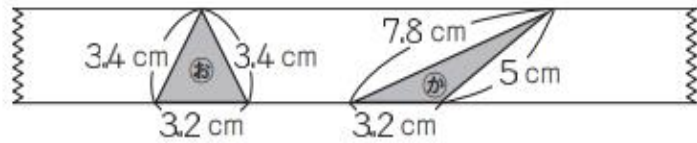
【正答率の高かった問題】算数

○伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求める問題

○割合が30%になるものを選択肢の中から2つ選ぶ問題

○高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係をもとに面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくります。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。

下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

課題の見られた問題】算数

△伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題

△乗法の計算、台形や三角形の意味や性質、()や加法・乗法の混合した式、棒グラフから読みとった情報を文で記述する問題。

【全体的な傾向】

※表やグラフを読み取ることはできるが、その規則性を他に適用するなど活用力に課題がある。

※無回答の問題が多く見られた。粘り強く問題に取り組む姿勢を育てていく必要がある。

【正答率の高かった問題】国語

○送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使う問題

*雑草の量について、農家のたんぼとくらべてみました。⇒「比べて」

○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと

○必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えること

*学校ボランティアにインタビューする谷さんが、どのような理由でその質問をしたのかを問う問題



【課題の見られた問題】国語

△原因と結果など情報との関係について理解しているかどうかを問う問題(選択式)

△図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを問う問題(記述式:2つの条件に合わせて、六十字以上、百字以内にまとめて書く。)

※無回答が多く見られた。条件を踏まえて書くことに課題。

△目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかを問う問題(選択式)

【全体的な傾向】

(書くこと)

※自分の考えを文章で書くことに抵抗感や苦手意識を持っている児童が多い。また、問題文で何を問われているかを読み取る力、自分で文章を構成していく力に課題がある。

(読むこと)

※多様なジャンルの本や言語情報にふれさせることにより、読解力を高めていく必要がある。

